HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第24巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1962-11-28
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77528
Type	manuscript
Note	『鈴木榮太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
File Information	I027_0142.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

意匠登録
No. 151492

A
30
ノ
353

NOTE BOOK

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP

國民社會の研究 (四)

日本歴史時代区分

第二十四卷

昭和三十九年七月七日

機関

Organ

institution

agency

結社[illegible]機関という語の訳語について

人や物や心が各地から集まってくる

行く[illegible]種々の社会的働きを結果する

生業活動の本拠[illegible]は社会的機関

[illegible]前[illegible]後世[illegible]人が[illegible]

したり連絡したりする[illegible]

活動本拠[illegible]これは結社機制

より集散機関[illegible]

結社は[illegible]なる来歴[illegible]集散

[illegible]なる来歴[illegible]

結社機関を英訳すれば organization

[illegible] agency [illegible]

[illegible]

第一の幸運は鉄、米、字が同時に輸入され独自的に（日本の風土に合せて独自的に之れを成長せしめた事）

弥生式文化は鉄、稲、字を包含されて、恐らく技術者集団が同時に移入によって日本は静かに独自の文化を島国の内で養成する事が出来た。これ等の材料によって日本は完全に成長し漢の郡縣四郡の頃にはすでに大口の力をもち四世紀には朝鮮に出兵して日本府を置くまでになっていた。

中国は楚漢の時を討ち、倭大口が其の頃少しく衰えた。漢の乱後隋の乱は日本の危機であったが、それ等郡縣は本は朝鮮の力をかりていたから、その後中国はわが国は分かれ隋唐の時代は一時大口となったが未開の仏教を文化に紀しつつ平和な大口であったから、日本は仏教を通して漸く宇代すっかりに吸収した。其の後中国は北方民族が宿となった。十世紀の中国は宋、今は幕末の力強大し元に至って統一国家として完成した時に十三世紀元寇があった。然し其の時日本は鎌倉において武家が成長して、大丈夫でなく共に手の又九鎌倉の平安時代から国力豊かな鎌倉時代に入っていた。そして之は非常な幸運であった。

第二はその後大陸における強い武力侵略は大口が十世紀以降も有しなかった。日本文化は平安に成長し

第三は平安時代でなく鎌倉時代に武家があった事

日本史の大きな時代区分と三つの幸運（三五七八）

中国に大強国勢い

BD BC

2019 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 | 1 2 3 世紀

秦・漢帝国　弥生前

鉄器 稲作 水稲の伝来

漢の郡縣 仏教中国に伝わる

弥生文化時代

古墳時代

大和朝廷 日本府朝鮮に出兵

飛鳥時代

白鳳時代

隋唐統一

奈良時代

平安時代

鎌倉時代

室町時代

江戸時代

明治時代

大正

昭和

[illegible]

最近米国人より日本人は西洋化しつゝあり
の人は形式の口真似をしてゐるに過ぎない
本人のなかに日本人と共同体
験の模倣者は甚だ少い。だから
口真似だけで日民族が決定す
ることは云へないのである。それは法律上の
手続[illegible]は本国民であり[illegible]
あるとおなじであり他の点は彼に
同国民という形式成一所成る成る
事はあるべき。法律上日本国民なりと
人の海外移住者大なるときは他
[illegible]

上なる人のあるのは当然である。口語体は
あとでは口語体より文語体が強く滞
留されるようになるだろうが、口語
体と文語体とは、ちょうど、ものごとの
の口語も結構しっかりくるかもしれない
なかなかむずかしくなるかもしれない
であるが、一般に口語体は一般的な
ものと共に発展するものであり、その
優秀の大小、好悪の別、新しさ古さは
問題ならず、それと共に和漢という区
別はかつてのものの存在しない。その
に有るのは正常の形で受入るのは何か
異常の状態と思われるのである。口語

自分が扶養されるのは当然、自分の親へ対して
いろいろ帰郷するのが当然。
けれども日本が諸外国と同じ日民たちの当然性は決して同じではない。
数日前に日本国民になった人が多数に三代前は外国人十代前は外国人
人春子の親の時代に日本人
国化してからの年代を経て孫の代になる。
孫の日華と比較しても日華人の日本有利でありながらも人の為に生活ではあるまいか時代のまくの場合は矢張り生活をする世ずるを得ない人からの情のあるのやむを得ずなのだと思って矢張り共存共栄

なお同じ様に強い他処がそうな様に
働いて来たコトに場合がそうであろう。
実際に藤は置ふルのではなくなへふ
つよりも脱すなよりいろいろ
かくの如き他処によって切藤は出
安さ不ろのかかってあるとすれば
むかくの如き中処の出理が素直な
隠れおこたくなる所に出ている場
合と自分の心に出ている場合とは
やはり出すに対する出方が異って
ゆの又人様の相違が一見して分る様な
場合と分らない場合とがあって時代
けれども一般に日民という形四様

[illegible]

私達が叫んだことは、せめて原爆
投下の時代から自分の父親が日本の
民主化作戦の時代の家族の生活
を知ってもらいたいと思ったからです。
作戦とその世代組織の中に強い
迫いまって多数の参加者がつどいました。
私たちの民の四十数代の家族を出す

始め人は一刷の内に数戸あり、漸次
に多くなり、多くは四五代（以）の程度が
ではあるが、どんな家柄だったか知ることはできない。
私宅に伝来の文書によって見る限り
の太古時代からの沿革を知ることの
出来ないことは、私は
遺憾に堪えない。
丁度家の存在を立証する証拠を得る程度
に古い時代に於ては、
（家の歴史は何かの記録であるが
記録の中に
書かれたものがあるのは
他へ移せば移せる程に
一般に知られていると思うが、
漢記の歴史家の見聞は
時によって
所謂合しあり。

私は純粋の日本国民より主張する人々は日本人の中に一人でもあるとは考へられないであらうか。

私の代議士の代は日本国民である事が分れば当然以上に何かがあるであらう。国民としての純粋は忘れて決して戦争だったか、町民だったか、百姓だったかを忘れてはならない。

一般に国籍のあるものは自分の意志を其に自からうちへ入れて一つのものであるかの様に考へられるようにしなければならないであるか。国籍が異常に問題になる。

には兄が如何に大きな影響を与えたかを
しつしつであるかをよくは三月七日夜
第十九チャンネルのテレビドラマ「半日本人」を
見た人はよく知ってることと思う。
それは口蓋の大きな影響を与えた
知的障害者の演技である。

三月七日記

民法における法律関係は、
交流は人間と自然、人間と人間
自然地主は多くは群を形成し、集落を
なす。交流は集落間に見られる
ように、集落は形態的に独立し
その内部生活は自給的に近代生活の
構成に構造をもっている。それが集落
形態である。集落形態には都市と村落
の二種がある。近代的交流の集落
組織制を果している生産手段の本拠の
集まっている集落が都市であり
それ以外の集落が村落である。
都市は社会的交流の大小の様々
民法学者は

なしてゐる。

強き相愛の内容を為すものは人と
物とである。

人格の意識は交替と降い
物の意識は単線より成
人の意識は直線より成る事がない。

近代の発達より共に交流の内容は国への
なく、局部には人、次に人、局部に於
の争ひが盛んになった。
人の個性の組織的向上の為の何かの
現在の心理学が社会的交流に生み
出す。従って局部には個性の為に困難
残留かくて再生者によって貢献の
而して真に要求が甲斐と向上のため交易の
時代に入ると、近代の個人は再生者

よりの事業に変動の機運を生ずる。
行く。今は変動の時代であるから、
都市に変動の機会を作る。
行く。農村漁村は村落から都市
へ。工場農村は都市から農村へ。
これらは変化されるのは①下級の都市へ
の道ではなく②生活に関するもの③金銭生活
に関するものもある。
総て人の生活活動は
一、生業に関するもの
二、生活に関するもの
三、金銭的生活に関するもの
この三種に分けて考へるのが便利で
心要

[illegible]

ある。

人が生活を営むのは、生存のためか
日々の生活のためか、余暇生活のためか、これ
[illegible]

経済学の中

a. 商品の価値（[illegible]）

b. 引渡[illegible]（日常生活用品）

c. 等価物の他余暇[illegible]

d. 緊急社[illegible]

昭和の着手順序は人間生活の
[illegible]
多面的であるが、a、b、c、dとも
かdaとbとcとすべきか、dcbとも

まるでカ海のようだ。

教育学の新問題

人間の生涯は世代的に組織されている。

それでなく世代的に組織され発展

成長しつつあるものであるから、人間的な

所の移動は全一回性的性格を

帯びつつ、まさに人と人との間の関

係の中に見出さなければならない。

見出すべき人間の教育的存在

に於ける過程的世代的組織に

我々は発展しつつ成長する。

しつつある世代の中での成長

つまり人と人との関係を見定

めるべきは居場所である。

人間は人間関係の成長

#教育は何かが問題である。

過程問題である。

法の正しい解釈は、それは、
それは、国民と人と人との
間関係における法の中における関係
国の解釈は、これ、法の中の
よく出来た一個の人格
ほんとうの意味の法律
しかし、法の中の法は、
法は、すべての人のために
法律の上に人と人との関係
同じ意味は、
おのおの人間の解釈は、
法律の上に人と人との関係

の一部をなすものである。現象である。
物へ「原因」「結果」の相のもとに現象
する。
都市には道路が縦横に走り、鉄道や
電信電話、水道が張りめぐらされ、複雑な
組織の使へる都市にあるものは小さな
各々は一物の存在の一部分を構成
する。
個人の精神は互に密接に関係し
あってやっと安定している。その内の一つの
要素に何かの中毒物質が混入すれば全
体の調和が異ってくれる。一年や二年
で反撥しつつあるものは、十年前
十年前には想像も出来なかった

ばかりが問題になっている。それは要素の表
面的なものであり、横の関係
理解するためには、それ不可欠である。
私たちは要素の回数的繋がり
を追及して、その繋がりの流れの上に
その間の関係を明確に理解
することが必要である。
それ以外は出来ない。出来ない時、矢張り今は
それ等をまとめる中間項が必要であり
それ以外にはない。

職任期。過去の歴史も同族組織的であった。特に今朝まで。

同族組織と滑反的組織

同族組織は日本文化基礎Vol.1で同族組織と滑反的組織として年齢階梯組織、大きなあげていいかい、地区組織、五戸制、五人組制、隣組、十戸制等の基礎隣制度も絶対同族組織と滑反的な制度であると思う。これまではすべて行政的制度でこの制度は東北北陸中部にもある。同族組織は人間の自然による低面であるこの低面がどんな場合でもそのまま行政組織になりかねないとしてはならない。行政組織は人を面倒や利害による報酬上下関係的に見ることを抑えて対等と見る見方の上に立って整理される。

社会的関係が生産と文明の進度

古代における社会は、人は原始的に自足
自給の生活をした。（この事件の関係は
原始的共同生活の時代から
過渡的集団移動生活の時代から
（小さな部落に定着する時代へ
家族を単位とした自足自給していた
ので、原始的な自足自給で、原始
的な生活をしていた。原始
社会内部の対抗的関係が発生した
ばかりで、まだ機械からまだ知らない
ものは、強者が弱者を屈服
しめて支配制御に類する行為により
収奪又は搾取せんとする強者が

弱者Bに種族的に交流が生じた。
今は完全に老夫婦。甲の家族が
Bの家族に同化しはじめた。
で歩くようになった。遊蕩の同化は甲の
家族内でBの家族内に御出かけ
大姉妹の結婚に見られるであろう。
かくて弱者所有の同化、遊蕩の同
化は人間の生活の始めから見られて
あるし、家族的映画的魔力にも大
者に対しそのカを異性慕いて集
落の人々は種族的にその異性強者に
接触したであろう。
動物的な肉の家族の中から特殊
封建的生活の

他に対する搾取が行はれ、然しかも彼の
事業には及ばない程な人の生活が
何千年又は何万年まくり返されたる程に
その同じ搾取の仕方が他の事業に
今日迄出来たのであるからは突然に新
しいものが出来るであらう。
恐らくは
甲事業内の暴力の強い者が同じの
事業内の人々を圧倒し奪略し
た後に陽の事業とその隣の事業
に同様の行動を行はれるのは当然
である。強者より弱者への搾取である。
然しこれは事業或は同の特徴である。
悪質の同盟や軍隊の関係なども

甲

東海道を甲州へ東海道を江戸に及ぶ同伴が生ずる。二人家の事項に関する接触に当たり庶番屋に出て人が動いて行くのだけではなく物が動いて行くのもあり通告の為に番頭さんが行くのもあるよ。

伝へはすぐ次に繋ぐ者が隣りの東海道の人に伝達し収穫物の穀物を奪取するのを毎年くり返した後味には神社明者が年に一定量の穀物を機械的に貢納するのによって年ごの降雪下をさけるに至り神社明者自の方から神明者Aの方に物を送る

と云ふ形式を、一般平等に与へる形式を
採用する事になるであらう。古代の帝国
の征服と貢物とはかくのごとくにして
Aより B へ、B より A へ
であるが、同様な征服と B より A への
貢物の上級の関係とが平等に
動きうるためには双方の側よりの適
信頼性の受容と心底のやりと
りも大いに必要であるであらう。
兵隊の関係の互換のためにも人の
往来の外に心の往来が必要である。
信仰は関係する協力のためには人も物も
心も往来しなければならぬであらう。
然し人の生活が今一段進んで来れば

物の送受は暴力による奪取的のものから
交易の形に進んだであろう。
陸に住み畑作する者は漁民の魚を
求めんとし漁民は穀物を欲しがるいは
有無を通じて生活するための必要のために
有物なるを知ったのは当然である。
有り余る物しつ、あるものを互いに交換
するのは人の生活を二倍にする格な
ものでそれが生活の進歩である。人は
論である。人は交易の益を知るに至った
時生活の躍進的前進を見た。然し交易
のためには物の移動が必要であり、その為
に人や心の移動も常に伴ってい

ようを通ねなければならない。

蔵帳と奥数の変易の外に変易の対象は

はるものは限りなくあるが蔵帳行

って来た、機帳を蔵帳と変易してくれる

事務所もあり、金奥を変易してくれる小

さな紙屋もつくれるところもあり、

寧ろ地方には巷をもって来て蔵帳を

買う人もある。蔵帳を作っている所は

蔵帳文化の中心の蔵帳と買うのが出来

るに及び生活は急に豊かさを増したと

思う。南の国の暖かい地方で出来るのは

北の国には珍らしいものばかりである。変易

する地域が広ければ機数が増やせば

物の移動 ― 国民生活の物の過不足を[illegible]
均衡化し、合理化に向ふ[illegible]
人の移動 ― 国際的人口移動[illegible]
又教育的[illegible]
化の一様化に向ふ
心の移動 ― 物の移動、人の移動が[illegible]
精神的である外に文化の一様化[illegible]
思想及び価値[illegible]
来すものである

[illegible]増すに至り、人の世の生活は便利となり[illegible]
となり幸福になったのです。人は経験[illegible]
事すか、今日の船は世界中の[illegible]
が定まって居るは人の生活の向上[illegible]
文明の進歩につれて[illegible]
増せ[illegible]人、今では[illegible]
[illegible]
[illegible]今や[illegible]
となった丈である。交通機関の上下と
交易[illegible]
と[illegible]
然し是等は[illegible]物だけ[illegible]
人と心(文化)との交換[illegible]

[illegible]

村落（現戦場死者供養）

口民死者

金世界

経験とは必然有能者の経路の些
人の働きや心の移動が見られます
当然である
第二に必要なる形態には日本人
の機関の調和として高尚なる、独特
と交流へ価値へある。一般的価値の回の
世界は重要と自覚である。には一定
界の形態には他存在の暗黙性に、
事実と言へば世界の方法の名にか
他者の自然に一定の自由は価値を
より情熱が遠ざかりません。
い成果へ進んで行くべきです。日本の
地方的習慣的生活形式が思います

六、交戦の形態について概述すれば、
七、相手国は其の国内の事情に
応じ、戦争の目的を変更し、
戦略を変更し、
戦術を変更する。
以上の事情は、
戦略、戦術、
戦法、戦闘
方法、全般に亘り
変化する。
戦略の変化は、
防御から攻撃
攻撃から防御
に移る。
然し乍ら、
戦略の変化は、
戦略的の関
係に於ける
変化である。
作戦の目的を
同じくする
作戦地域に
於ける
国家間の
作戦
戦術的変化
の関係である。

一四、間の勝負は勿論甲の機械化によるが
勝敗し、乙の機械の工作物生産し
との間に於ける下層の段階に於て
日本は最新鋭機多くを持てない
以下の如き機械化は之に於て国際交易
統治が全く自由に行われ、依存によりて得る
のもはや明白に…
二つの段階は世界の各国に完全に
つまり二つの大きな経済が完成
以上の如き段階に於ての型は下から国
の拡大と交流的な機関の増加すると
意味している。文明は何よりも交流
團の拡大を意味するのであるがかかり

人間関係は拡大すれば、人の生活関係は
拡大であって、人の一人の力が強大になる
ことである。人の力の関係は幾何級数的
であって、二人の協力は倍になる。
二人の協力は倍になるとは、aとaとの協
力は2aとなり、aとbとの協力はa+bとなる。
aとbとの協力は2a+2bである。これ家族
いへどが4人になるまである。親戚と
親戚家族程人が強力であると言はへ
る。人は一人の動物なので共同を社
会。移動を利用している。倍倍の
新しい利用している。文明の発達が加速な

方の多くの発達の拡大はこれの
多くの上昇段階を経ていること
七、二七。

的な成長と評価である。